

21. 種痘後脳炎の一症例

篠本 直, 牧野忠夫 (社保船橋中央)

生後 5 カ月の男児に, 初回種痘接種後 9 日目より脳炎症状を認め, 髄液よりウイルスの検出はできなかったが, 中和抗体 CF 価, HI 価の上昇を認めた。ステロイドホルモン, γ -グロブリン, 抗生剤またはビタミン B₁ 注射およびマッサージ等をおこない, 一命をとりとめたが上肢の硬直性麻痺および下肢の弛緩性麻痺を残した。また, 脳波検査にて, dysrhythmia を併なった γ -Frontal sharp waves を認めた。以上のごとき種痘後脳炎の一症例を報告した。

22. 栃木県上都賀地区における無菌性髄膜炎, 特にその不全型といわれる「夏カゼ」について

布川武男 (上都賀病院小児科)

過去 3 年間にわたり, 日光, 今市, 鹿沼地区に発生した無菌性髄膜炎の流行例について報告した。発生時期, 主要症状, 髄液の所見等については, 従来報告せるものとはほぼ一致するものであった。これら流行例のうち, 昭和 39 年, 今市地区の一社宅内に発生した例では, 患児発生の周辺に, その不全型とみられる感冒様症状を示す患児の発生がみられた。また, 昭和 41 年には, 結婚式の集りを媒介として, 感冒様症状を呈せる 1 例より, 3~8 日の潜伏期をもって, 次々に, ある者は感冒様症状を示し, ある者は無菌性髄膜炎に罹患した。このうち 1 名より, ECHO 6 型を検出した。なお, 報告した症例のうち, 麻痺等の後遺症を示したものは, 1 例もなかった。治療は, 脳脊髄液排除, 抗生剤投与, その他対象療法を行なった。

追 加 中島春美 (佼成)

昭和 34 年東京中野区に流行した無菌性髄膜炎 14 例に対し ECHO 6 型と決定した臨床症状を報告し, 将来, 本症が多くなるであろうことを予告した。その後年ごとに各地で発表が多くなり, ECHO 4 型も報告されるようになった。

追 加 岡田宏一 (新潟県新井市頸南病院小児科)

昭和 39 年に新潟県新井市で約 240 例の ECHO 4 型による無菌性髄膜炎の大流行を見た。この際汗疹様~麻疹様発疹を伴うものが 6~7% に見られたので, 夏かぜの場合, これらの発疹をみた時には注意を要したい。

23. 幼児の帯状疱疹の 1 例およびそれに続発したと思われる水痘症の院内感染例

石井誠一 (東京厚生年金)

成人, 特に高年令にはポピュラーな帯状疱疹も“いわ

ゆる水痘症年令”と言われる 5 才以下の乳幼児に見ることは少ない。

われわれは 3 才 4 月の男児例を経験した。すなわち三叉神経第 1 枝に沿って発症し, Herpes Ophthalmicus を併発した。小児の本症は疼痛は比較的軽症で Postherpetic neuralgia は少ないと言われているが, 患者の疼痛はむしろ激痛であった。

なお retrospective に考察して, 明らかに本症に続発したと思われる水痘症の 2 例を観察し併せて検討した。

質 問 本宮 建 (千大小児科)

同一あるいはきわめて近縁関係にあるウイルスが, 成人では Herpes zoster を起こし, 幼児では水痘を起こしてくるメカニズムについて御教示下さい。

解 答 石井誠一 (東京厚生年金)

私自身には御質問に対する明確な考えは持っておりませんが, 文献によると V の Virus を潜在的な形で内部 (神経節附近) に保有している者に, ある原因で免疫の低下が起こった場合に Zoster を生ずるとの説があります。

ただし Zoster の Virus と Varicella の Virus は非常に近縁ではあるが, 最終的に同一のものかどうかは未定のようなのです。

24. トキソプラズマ症と思われる 1 治験例

中島春美, 相沢 昭, ○阿久津美代子

(佼成病院)

痙攣を主訴としたトキソプラズマ症を思わせる生後 16 日男児の 1 例を報告します。

家族歴, 既往歴, 特に異常ないが, 母親が妊娠初期に迷い犬を飼育した既往があり。その他, 妊娠中, また分娩異常を認めず。入院時, 痙攣と生理的範囲の黄疸, 大泉門膨隆, 肝腫大, 項部, 四肢硬直あり, 諸種の検査をしたところ髄液圧高く, キサントクロミーあり, トキソプラズマ赤血球凝集反応, 患児 1024 倍, 母親 8064 倍と強陽性, 気脳法にて軽度内脳水腫あり, 次第に貧血出現, 症状が増悪, 視神経萎縮も出現したため, Daropirin, sulfadiazine, および spyrarnycin を併用したところ, 上記症状は改善され, 抗体価も 2048 倍まで上昇したのが 500 倍にまで低下。目下外来にて経過観察中。薬剤がある程度効果あったと思われる。

25. 先天性トキソプラズマ症の 1 乳児例

青山恭二・福本泰彦 (成田日赤)

昭和 41 年 6 月 12 日, 初診時 7 カ月の女児で 40°C 前後の弛張熱と全身性間代性痙攣を主訴として入院。入院